

令和8年度研究プロジェクト計画概要

研究種別	■自主研究 15	公益目的事業 19
主査名	岩尾詠一郎 専修大学教授	
研究テーマ	ラストマイルにおける配送サービスの変化と中山間地域の物流対策	
<p>高齢化が進展している中山間地域において、高齢者の自動車運転免許の返納が進むと、移動手段が自家用車から公共交通機関へと変更される。しかし、これらの地域では、公共交通の運転手不足などにより、公共交通機関の減便や廃止が発生しているため、住民の移動が制限されることになる。移動が制限されることで、消費者は商品(生活必需品)の購入場所を店舗から自宅等へと変更することになるため、着荷主(消費者)が指定した場所までの配送が必要となる。しかしながら、着荷主(消費者)の指定した場所までの配送する貨物自動車のドライバーも不足しており、これまでと同じ配送サービスを維持することが困難になっている。</p> <p>また、過疎化が進展している中山間地域では、一回の輸送当たりの配送先数が減少し、貨物自動車の積載効率が低下するため、これまでと同じ配送サービスを維持することが困難になっている。</p> <p>このように、高齢化と過疎化が進む中山間地域では、配送需要が減少する一方で、最終届け先までどのような方法で商品(生活必需品)を供給していくかが大きな課題となっている。</p> <p>そこで本研究では、中山間地域に焦点を当てて、発荷主や配送事業者が検討すべき配送サービス水準(時間指定、当日配送、再配達無料など)の変更可能性、着荷主(消費者)の受取場所(玄関、玄関前、小さな拠点など)の変更や、配送方法(ドローン配送、貨客混載配送)の変更などが配送に与える影響、および端末物流対策を明らかにする。</p> <p>具体的には、社会の変化として、高齢化の進展と過疎化の進展を取り上げ、これらの社会の変化が、中山間地域への配送に与える影響(1輸送当たりの配送個数の減少、配送回数の増加など)を明らかにする。次に、これらの社会の変化においても、配送事業者が、現在のサービス水準(配送頻度、時間指定など)で着荷主(消費者)に配送サービスを提供する場合の課題(積載効率の低下、複数回の配送など)を明らかにする。そして、配送事業者が経営を継続できる範囲での持続的な配送をおこなうための配送サービス水準の設定の考え方を明らかにする。さらに、着荷主(消費者)の受取場所(玄関、玄関前、小さな拠点など)と配送方法(ドローン配送、貨客混載輸送)を変更した場合の配送に与える影響も明らかにする。最後に、中山間地域において、配送事業者が配送サービスを実施する際に必要となる端末物流対策(ドローン配送、貨客混載配送、曜日指定、時間帯指定など)も明らかにする。これらの分析を通して、中山間地域における配送サービス水準の設定方法が明らかとなる。</p>		